

Q. 私たちが使った「水」はどのように流れていくのですか？

A. 横大路・納所地域の排水処理は、汚水と雨水を別々に流す「分流式」と呼ばれる方法で行われています。

分流式では、風呂・トイレ・キッチンなどの生活排水として使われた「水」は、汚水管を通じて下水処理場（伏見水環境保全センター）に送られ、浄化処理を経て河川（宇治川）に流されます。

また、宅地内や道路上に降った雨水は、道路の側溝や雨水管を通じて水路に集められ、最後は河川（桂川）に流れます。



※分流式の他に汚水と雨水を同じ管で流す「合流式」があります。



Q. 新しく道路を整備する場合には、雨水などの「水の処理」が重要と聞きました。新しく道路を整備する時に「水」はどのように影響しますか？

A. 道路を新たに整備する場合は、現状での水の流れを細かく確認し、慎重に工事計画を作らなければなりません。

分流式で水処理を行う横大路・納所地域では、新たに整備する道路に沿って雨水を流す「側溝」が整備され、道路の中央付近の深い位置には、汚水管が設置されます。また道路整備に併せて側溝から水を集める水路も整備します。

つまり、新しい道路や水路の整備は皆さんが生活されている地域の既存の「水の流れ」を変えることとなります。

区画整理では、道路や水路が、水の流れる道（側溝・水路）として、とても長い距離を整備するため、整備する区域の下流側から上流側に向けて順番に整備しなければ、整備された所と未整備のままの接続部分から水が溢れる可能性があり、整備の順序や方法には十分注意しなければなりません。

今後もこうした点について十分に留意しながら関連工事を進めますので、皆さんのご協力をお願いします。



お願い

- 土地区画整理事業施行地区内では、土地の盛土、切土を含む建築行為等について制限がかかりますので、事前に当事務所へご相談ください。
- 住所変更、名義変更などをされた地権者の方は、ご面倒をおかけしますが、当事務所へご連絡いただくようお願いいたします。



発行：京都市南部区画整理事務所

住所：京都市伏見区下鳥羽但馬町 134 番地
電話：075(601)6181 FAX：075(601)8522
ホームページ：<http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000171480.html>
「伏見西部第四地区について」で検索(区画整理通信のバックナンバーも掲載)

区画整理通信

「水」とのかかわりを考える



【水と区画整理】

「水」…それは、私たちの生活の中で、実に多様な役割を担っています。飲料水はもとより、炊事・洗濯・風呂・清掃など、日々の家庭生活で水は欠くことができません。

また、農業を始め各種の産業活動でも水は大きな役割を果たしており、さらに河川や水辺では様々な生き物を育み、人々のレクリエーションや癒しの場所としても貴重な存在です。

そして時には、大雨によって洪水や土砂災害を引き起こし、私たちのいのちや生活を脅かすこともあります。

こうした「水」をうまく活用しながら、水と共に安心・安全な暮らしを守るために、土地区画整理事業による水路や道路側溝などの整備がとても重要となってきます。

今回は、この伏見西部第四地区における「水」の状況等を紹介いたします。

【水路の整備】



12-2号水路工事と京都守口線歩道改良工事（左：施工前、右：施工後）

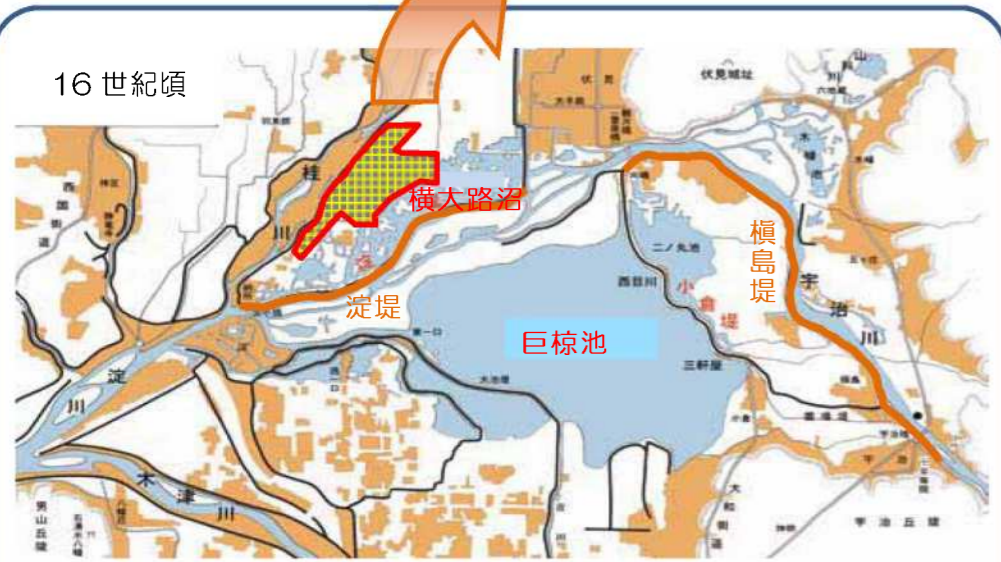
横大路水防団が内閣総理大臣賞を受賞！

平成25年9月に京都府を襲った台風18号により、豪雨が降り続く極めて困難な状況の下、昼夜にわたり土嚢積み等の水防活動を行うなどの被害軽減への多大な貢献に対し、横大路水防団は、平成27年9月7日に防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞されました。

地域の皆様の防災に向けた強い思いが今回の受賞として高く評価されましたことを、心からお喜び申し上げます。



いのちと暮らしを支える水 過去から今、そして明日へ



【横大路沼生成の経緯】
 巨椋池は、現在の京都市伏見区・宇治市・久御山町にまたがり、宇治川が京都盆地の東端で流入する平等院付近から、西端の木津川、桂川との合流点の上流側にかけた広大な遊水池で、平安時代以降ほとんど変わりありませんでした。
 しかし、文禄3年(1594年)に豊臣秀吉の伏見城築城に伴って行われた大規模な治水工事として横島堤が築造されました。これにより、平等院付近から巨椋池に流れ込んでいた宇治川は大きく北側に迂回し、伏見城の外濠の役割を果たすとともに、大阪城と伏見城を結ぶ水路となりました。
 その後、伏見から納所に向けて宇治川の右岸に淀堤が造築され、これによって、巨椋池は南北に二分され北側が横大路沼となりました。
 横大路沼は昭和22~25年(1947~1950年)に干拓事業により新田開発が行われ、その後、都市化が進んで現在に至っています。

《既存の水路と新たな水路》
 横大路の既存水路(水色)は、地域の先人達が、地理的条件を生かしながら、改修を重ねて現在まで引き継がれてきました。これらの水路は雨水の排水だけでなく、農業のための利水・排水といった役割をも担う重要な施設です。
 今後は、府道京都守口線から西側の区域で多くの道路・水路の工事を進めていきます。特に水路工事(紺色の点線)では、既存の水路に流れる水を考慮しながら下流側から工事を進めるなど、工事の途中で水が溢れないよう十分注意していかなければなりません。

- 平成27年度の整備箇所
- ①：14-1号水路，区画道路6-40号線
雨水の排水処理を中心に整備します。
 - ②：横大路中通，区画道路6-14号線，緯12-2号線，経4-2号線
横大路の既成宅地部を整備して行きます。
 - ③：11-1号水路，横大路中通，区画道路6-12号線
横大路中通を整備して行きます。

凡例

- 従前の水路
- 整備済の水路
- - - 整備予定の水路
- 平成27年度整備箇所
- 平成26年度整備箇所